

辻説法

岩手県曹洞宗布教師会三分間法話

石を投げるおばあさん

紫波町・蟠龍寺住職 中野 英明

九十二歳の天寿を全うされたおばあさんがおりました。このおばあさんはいつも道路の脇に腰を掛け、通る人を眺めておりました。それがおばあさんの日課でしたので、誰も余り気にならなかったのです。実はある日、おばあさんが不思議な行動をしているのを見てしまったのです。おばあさんは腰を掛けたまま、おぼつかない手で一生懸命に周りの小石を拾い、自分の足元に並べていたのです。やがて、その内の一個を手に持ち、道路の向かい側の方に投げるのです。気がなったものですか

ら、おばあさんに近づき、「おばあさん、どうして石を投げるの？」と、耳が遠いので、大きな声で尋ねました。すると、おばあさんの口から意外な言葉が返ってきたのでした。「向かいのゴミに寄ってくるカラスばかりでも、追い払ってやりたいと思ってる……その日は生ゴミの収集日でした。そして「もう年をとって、なかなか他人様のお役に立てなくなってしまうので、せめてこのくらいのごときは……」と話されるのでした。

出る言葉は感謝、感謝の言葉でした。お嫁さんに感謝、家族に感謝、近所の皆さんに感謝。おばあさんからは一言も愚痴を聞いたことはありませんでした。年を取られ、歩くことも思うようにならないおばあさんが、なんとかして他人様のために尽くしたい、尽くす喜びとして生きてくれたのです。おばあさんの生きていく限りの願いであった「他人様の為に生きる」ということを、これからの人生の指針として生きて行きたいものであります。

曹洞宗岩手県宗務所

テレホン法話

☎ 0198-62-1121

ほとけに
出会う

心に残る
法話を
お聞き
下さい